

変わりゆく結婚差別

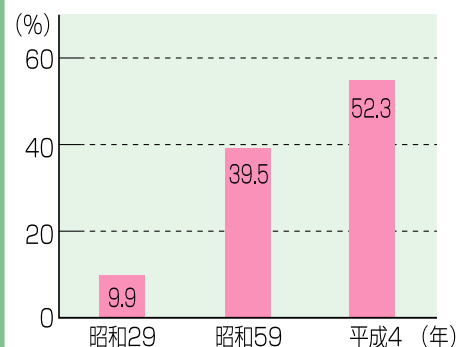
同和地区の方が地区外の方と結婚した割合は上昇しています。

人権問題は私たち自身の問題です。人は親や生まれる場所を選べません。『生まれた土地による差別で結婚の自由を奪われること』こんな不合理な結婚差別があっていいでしょうか。

結婚の実態調査 <1993(平成5)年>

(同和地区の方が地区外の方と結婚した割合)

兵庫県S市の場合

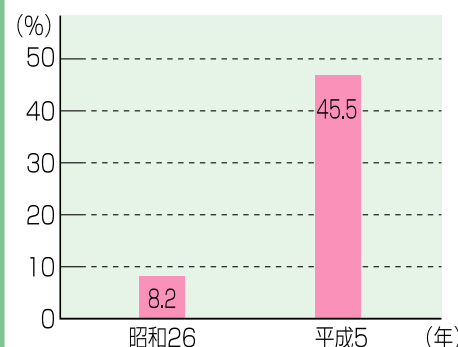


両市とも、同和地区の方が地区外の方と結婚した割合が増加していることが分かります。

さらに、2000(平成12)年大阪府全体の同和地区の30歳未満を対象にした調査によると69.3%と増えております。

越えがたかった壁はすでに越えられる壁になっており、明るい展望が感じられます。

大阪府I市の場合



差別を乗り越える力を付けた若者たちが増えていきます。長く繰り返されてきた「差別による破談」の再生産を断ち切り、幸せになろうとする若者を支援する社会環境が大切です。

**結婚差別の強固な壁は、
もう少しで崩れ去ろうとしています。**

嫁ぐ日の朝

結婚式の日、「どこへ嫁ぐの」と近所の人に聞かれギクリとした。

嫁ぐ先の名前を言えば部落だと分かってしまう。そんな時、母親は「どこどこへ嫁ぐんですよ。ご両親ともとてもいい人で」と言った。周りの人のかすかなざわめきが聞こえる中、母親は平然と嫁ぐ娘を見送った。

娘は思った。

「あなたの子に生まれてよかった。あなたは私の誇りです」と。

子は親を見ます。こんな母親をもった娘は幸せです。少なくとも、母親は同和地区に対する偏見を持っていないからです。

世間体に振り回されると、子どもの幸せが見えなくなります。差別は、した者もされた者もみんなを不幸にします。



結婚差別を乗り越えた二人の結婚招待状 から

生きるということ 愛するということ

相手の命を尊ぶこと

私たち二人は永遠に真実を正視し

すべての人間を尊敬し

すべての人間を信頼し 美しさを求めて

生きていこうと誓いました

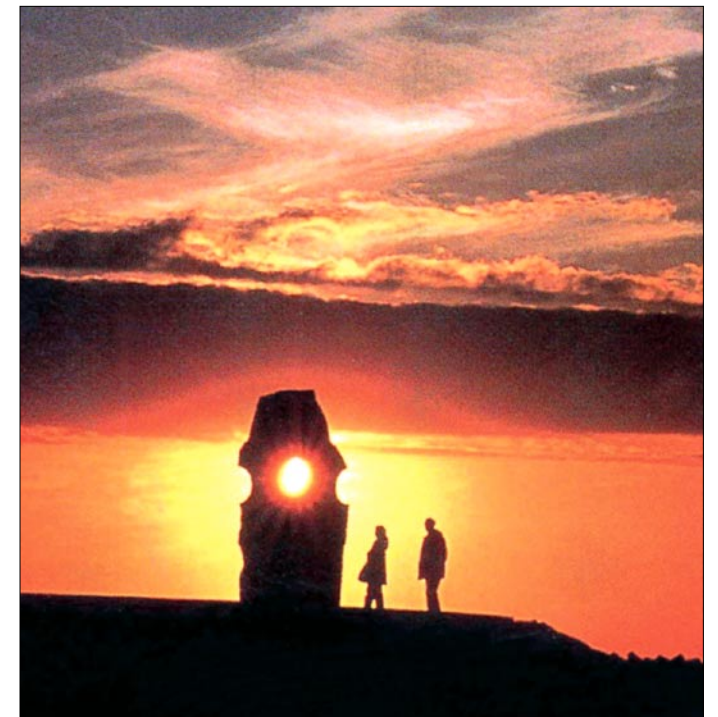
私たち結婚します

(中学校道徳資料 文部省 平成6年3月出版「峠」から)

しあわせ

同和問題解決への明るい展望

～結婚差別を考える～



双海町の恋人岬

2007年1月 発行

伊予市教育委員会

愛媛県人権教育協議会伊予市支部

同和問題は

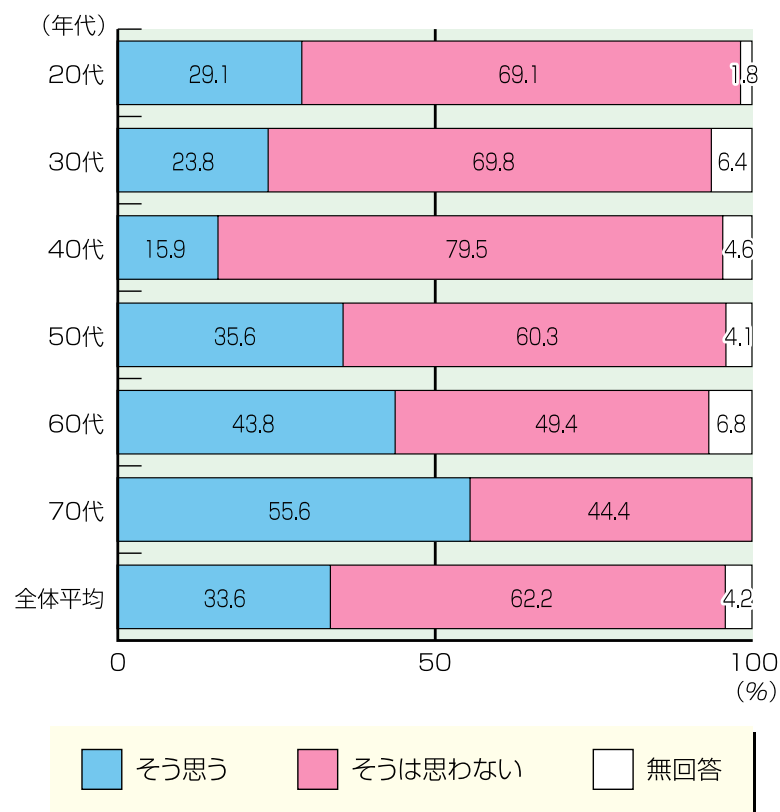
封建社会の身分制度による差別が、現在においても引き継がれ、人権が侵害され、**市民的権利と自由**が完全に保障されていない重大で深刻な社会問題です。

市民的権利と自由

職業選択・居住移転・結婚の自由
及び教育を受ける権利等の保障

この問題は、ほぼ解決されたと思いますか？

<2002(平成14)年 伊予市民意識調査結果>



すべて国民は法のもとに平等であり、生まれた土地や住んでいる場所で差別されることがあってはなりません。今でも、同和問題は解決していないと考える人が約62%もいます。

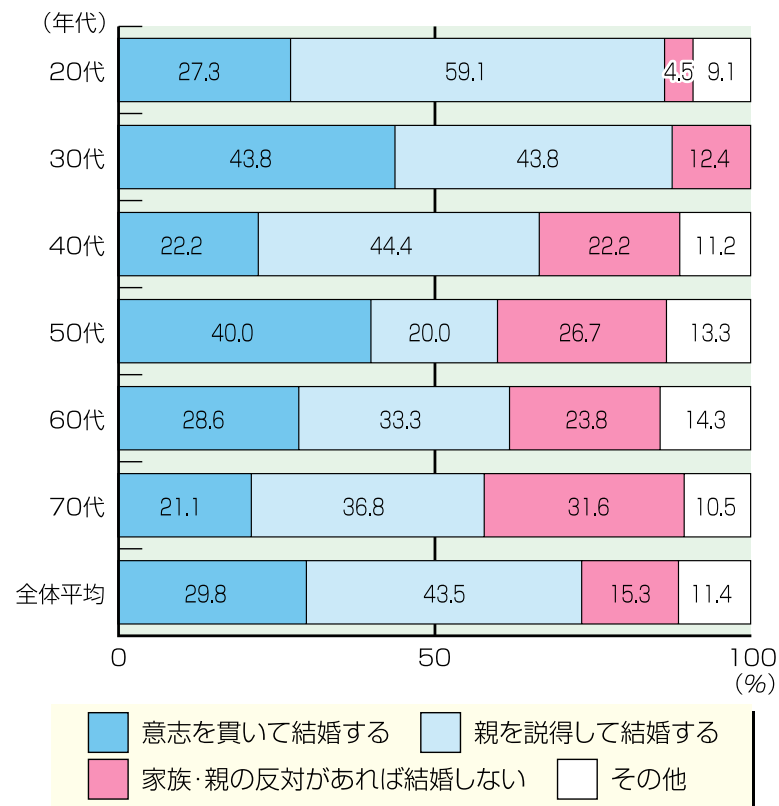


結婚問題の解決を願って

結婚差別とは、男女の婚約・結婚に際して、相手方の家柄・学歴・社会的地位等によって反対したり、結婚の話をこわしてしまったりする行為を言います。

結婚に際し、同和問題が関わった場合、あなたはどのような態度をとりますか？

<2002(平成14)年 伊予市民意識調査結果>



結婚に際し、同和問題に強い意志で立ち向かい、差別に負けない態度を持つ人が約73%と多くなっています。

結婚の自由は私たちの基本的人権

「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し……」と、憲法24条でうたわれています。お互いの合意が社会的に、また、法的にも結婚を成立させます。

結婚は二人の気持ちが大切

厳しい結婚差別を乗り越えたご夫妻の講演会

講演を聞いた参加者の声

「話を聞いて、涙があふれるくらい感動した。けれど、自分の子どもの時には考えるわね。」

自分の家族のことになると別問題…なぜでしょう？

社会の差別意識に縛られた個人が、差別を恐れ、「自分の身内にだけは迎え入れたくない」といった偏見を持つことにより生まれた**忌避意識**の表れです。

差別意識は自分に利害がからむと表れてきます。果たしてそれでいいのでしょうか。

差別は心の問題

「差別がいけない」ことは、誰もが知っています。しかし、知っているだけでは差別は無くなりません。

結婚差別は世間体意識がら生まれます。

- 弟や妹の結婚に影響する。
- 親戚や近所つき合いができなくなる。
- 生まれた子どもが差別されて不幸になる。

このようなことはおかしいですね。

「おかしいことはおかしい」と言える、強い心と差別解消への行動力を持った自分を一人一人がつけることが大切です。

